

透析患者の服薬管理の現状

(医) 財団はまゆう会新王子病院

○清水貴弘、大可啓子、上川佳代子、溝上由紀江、瀬川賀世子、箴島明彦、田中孝夫

【はじめに】透析患者は合併症が多い為、多剤投与となりやすく、飲み忘れや飲み間違いなどのリスクが高い状況にある。今回、入院患者の服薬現状を調査し分析した結果を報告する。

【目的】血液透析患者の服薬管理の現状を調査し考察する。

【方法】H26年5月1日～H27年4月30日に入院した血液透析患者103名を対象とした。入院時に内服薬を全て持参してもらい、一包化の有無・薬剤数・種類等、項目別に分け分析した。

【結果】57%の患者が服薬管理不十分であった。内服薬の数が多い程、管理不十分であり特に残薬が多かったのはリン吸着剤であった。逆に残薬が少なかったのは鎮痛剤、眠剤であった。

【まとめ】鎮痛剤、眠剤等、QOLに影響するものは管理出来ており逆にリン吸着剤など身体に直接、影響の少ないものが管理出来ていなかった。現在、当院では入院時に服薬管理状況を把握し退院までに管理が出来るよう服薬管理の工夫に取り組んでいる。今後も服薬コンプライアンスが向上できるような工夫、援助が必要である。